



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Effects of Quality Management Measures Based on the Use of Project Management Information System for Project Management Success of ERP Implementation [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	谷口, 篤
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(情報科学)
Dissertation Number	甲第13529号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74321
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Atsushi_Taniguchi_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士 (情報科学) 氏名 谷口 篤

審査担当者 主 査 教 授 小野里 雅彦

副 査 教 授 金子 俊一

副 査 准教授 田中 文基

学位論文題名

Effects of Quality Management Measures Based on the Use of Project Management Information
System for Project Management Success of ERP Implementation

(ERP 実装におけるプロジェクトマネジメント成功のためのプロジェクトマネジメント情報システムの利用に基づくクオリティマネジメント処置の効果)

ERP(Enterprise Resource Planning:企業資源計画) の実装プロジェクトにおいて、プロジェクトマネジメント情報システム (PMIS) を利用することにより、クオリティマネジメントからの要求に応え、プロジェクトを確実に成功に導くための管理手法の必要性が高まっている。

本論文の著者は多様な組織における ERP の実装プロジェクトを俯瞰的に管理・分析・指導する業務に長年従事しており、PMIS の利用に基づくプロジェクトマネジメントの継続的な品質改善手法の開発研究を行ってきた。その豊富な経験から生まれる問題意識と発想により、本研究は遂行されている。

本論文の第 1 章では研究の背景と論文中に使用される基本概念の説明、研究目的と論文構成が述べられている。

第 2 章では、関連分野の広範な学術論文の文献レビュー調査結果から、1)PMIS 出力情報の品質改善の効果、2)Q-Gate プロセスを開始するための効果的な PMIS の使用、および 3) 品質監査を実施するための事例の有効利用、から成る三つのクオリティマネジメント処置を改善アプローチとして研究実施項目としている。

第 3 章では、PMIS 出力情報の品質を改善するために、著者は PMIS からのプロジェクト進捗報告の報告品質について、PDCA サイクルに基づく継続的品質改善がどのように行われたかを、日本のさまざまな業界の顧客向けのソリューションプロバイダによって実装された ERP プロジェクトでの 9 つの対象プロジェクトから取得したスコアカードデータに基づいて行っている。これにより、PMIS の報告品質の継続的な改善が、プロジェクトの意思決定、計画、編成、および管理において管理者を支援する PMIS 出力情報品質の達成に効果的であることを示し、時間、コスト、品質の観点から、プロジェクト管理の成功にも効果的であることを示した。

第 4 章において著者は、ソリューションプロバイダによって日本のさまざまな業界の顧客に対して行われた ERP 実装プロジェクトを対象に、PMIS を使用したプロジェクト品質ゲートプロセスの実装について説明している。プロジェクト品質ゲートレビューのために予定されていた 4 つの実

施プロジェクトについて、提案する品質ゲート管理リストデータに基づく結果は、PMIS が識別に有効であることを示した。4 つの品質ゲートレビューすべてが時間通りに受け入れられ、完了したため、各品質ゲートレビューに固定されたスケジュールに基づいて、タイムリーに品質ゲートプロセスを開始するようプロジェクトマネージャに通知し、適切な影響を与えたことを示した。

第 5 章では、収集された教訓を再利用するためのクオリティマネジメント処置に対して、著者は PMIS の利用により第三者クオリティレビューアーとプロジェクトマネージャで確定したプロジェクトレビュー実施日に基づき、正式な品質監査が必要と特定された具体的なプロジェクトのプロジェクトレビューを開始するための体系的なアプローチを提示している。事例研究方法論により、過去のプロジェクトレビューの結果に基づく教訓の利用は、プロジェクト文書レビューとプロジェクト・ステークホルダー・インタビューを実施するプロセスで具体的な改善が予測された分野に注目することと、正式に品質監査の結果として顧客に提示、提出するためのプロジェクトレビューの結果を最終化するために所見に対する実用的な推奨事項をまとめるうえで有効であることを明らかにした。

以上の結果として、三つのクオリティマネジメント処置に対して、PMIS はクオリティマネジメントシステムの要求事項を向上させるためと、時間、コスト、品質尊重の観点からプロジェクトマネジメントの成功達成のために好ましい影響を与えるうえで、有効であることを示した。

最後の第 6 章では結論と展望を述べている。

これを要するに、著者はこれまで有効な体系的手法が提示されてこなかった ERP 実装プロジェクトのメタレベルのマネジメントに対して、プロジェクトマネジメント情報システムによるプロジェクト監視を軸にした具体的な手法を提案し、その有効性を実際のプロジェクト実装の中で示しており、プロジェクトマネジメント、プロセス品質管理、組織管理論の発展に貢献するところ大なるものがある。よって著者は、北海道大学博士（情報科学）の学位を授与される資格あるものと認める。